

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4090100050		
法人名	株式会社 さわやか倶楽部		
事業所名	グループホーム たいよう		
所在地	〒801-0811 福岡県北九州市門司区大積1174-1 TEL 093-342-3300		
自己評価作成日	平成23年7月10日	評価結果確定日	平成23年08月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

個別ケアを合言葉に個々の希望・要望を叶え、笑顔の多い生活が提供できるよう取り組みをおこなう。①出勤時、退出時には入居者様へ全員が挨拶をし、少しでも名前と顔を覚えて安心して頂けるよう働きかける。②個別のレクリエーション(主に外出)を企画する。御本人が行きたい所、やりたいことを探り希望を叶えるべく取り組む。
地域運営推進会議、町内行事への参加、事業所行事へのお誘い等、地域とは良好な関係を保ってきたが、今後は地域の誰もが気軽に立ち寄れる場所としての働きかけをしていきたい。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5-27 TEL 093-582-0294		
訪問調査日	平成 23年07月27日		

「たいよう」は緑に囲まれ、環境に恵まれた広い敷地の中に、小規模多機能ホームと併設のグループホームである。バラ園や菜園、緑のカーテンが広がる庭から、建物の中に入ると、利用者の手づくりの作品が飾られ、清潔な室内は明るく、家庭的な雰囲気である。管理者は、「利用者が、自分らしく心豊かな生活を送る支援をする」という思いを、職員と話し合い、利用者一人ひとりに合わせた介護サービスを実践している。特に、職員間の連携の取れた仕事ぶりは、法人全体で取り組むサンクスカードを通じて、ありがとうの感謝を表し、チーム全員で取り組む介護の中味は、質が高く、家族の信頼は厚い。また、町内会に加入し、地域行事や、バス停の清掃、ホーム行事等の相互参加や、小学生の体験学習受入れ等、地域から信頼されるグループホームとしての活動が始まっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を掲げ、スタッフはその理念を共有し実践している。が、認知症が進行し介護度が上がることにより入居者様が出来ることが年々減少していく現実がある。	「全ての職務は理念に始まる」と、利用者が持っている力を活かし、地域とのふれあいを大切にその人らしい生活ができるよう掲げた理念を實踐し、職員は利用者の自主性を尊重し、さり気なく寄り添う支援している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	季節事の地域行事(ハイキング、港祭総踊り、運動会等)、当事業所で行う通年行事(夏祭り、周年記念等)へ其々お誘いと参加。又、バス停付近の清掃をする等の取り組みを行って交流を図っている。	地域の行事に参加し、ホームの行事に地域の人を招待する等、交流が始まっている。近くの小学生のふれあい学習の場や、高校の介護科の実習生受け入れ等、地域との関わりを大切にしたり取り組みをしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	当方からの貢献はなされていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では毎回、現在の状況、抱負等を報告し、困難事例などの問題提起も行っている。話し合いの結果活かせる意見は取り入れている。	民生委員、地域包括支援センター職員、老人会会長等をメンバーに開催している。ホームの状況報告や、学習会等も実施し、メンバーからの助言で地域の行事に参加する等、運営に反映させている。家族が、参加できるように曜日の変更等も検討中である。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議のメンバーに地域包括も入っており助言等を頂いている。又、地域包括が関わっている入居者様についてはいつも連携を図っている。	地域包括支援センターや市の担当者と利用者の状況について情報を交換し、アドバイスを得て、市の介護相談事業なども活用している。ホームの知識や経験を活かし、市と協働で、介護相談事業を、今後の検討課題と捉えている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会社をあげて研修を行い職員の正しい理解に努めている。当事業所では身体拘束は行っていない。	身体拘束廃止のための、職員研修を実施している。利用者が過ごす空間は、職員が見渡せる造りで、拘束することなく安全が確保できている。職員は、利用者の生活リズムや傾向を把握し対応している。また、どの出入り口にも鍵を掛けていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会社をあげて研修を行い職員の正しい理解に努めている。現在、家族よりの虐待避難でお1人入居されており地域包括と問題協議中。		

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修の機会を設け職員の正しい理解に努めている。今年度は未だ行っていないので近く行う予定。現在該当する事例はない。	権利擁護に関する研修を実施し理解を深めているが、記録に残したり、資料を揃え利用者、家族に説明するまでには至っていない。現在、制度を活用している利用者はいない。	必要な時に必要な支援が出来るように資料を備え、利用者、家族に資料を用いて説明する等積極的な情報提供や、橋渡しへの取り組みが望まれる。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分に説明を行い疑問点にお答えし納得の上署名、捺印を頂いている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常的に入居者様、御家族様から意見要望をお聞きしている。又、福祉相談員さんが定期的に来られており、そちらを通じて頂くこともある。意見、要望は運営に反映させている。	利用者と同じ食事を共にしながら、家族会の開催や意見箱の設置等、利用者や家族の意見を聴く機会を設け、家族面会時に、意見や要望を聴いている。出された意見は職員間で共有し、サービスに反映させている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送り時や月1回の職員会議、又必要に応じてその都度職員からの意見、提案を聞き反映させている。	全体会議、日々のミーティング等、意見を聴く機会が多い。提案書入れも作成し、意見を募っている。職員間の感謝の気持ちを表したサンクスカードを作成し、コーナーに貼り、職員間の連携とチームワークを育てている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与、賞与の査定、毎日の業務日報の提出。認定講座修了者への手当て支給、提案制度新設等により行っている。		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用にあたって性別や年齢等の制限を行っていない。研修、教育の場を多く設け資格取得も奨励している。社会参加や自己実現等に関してはむしろ後押しをしている。	職員の採用は、性別や年齢などの制限は設けていない。全て常勤職員とし、段階に応じた研修への参加や、働きながら資格取得を目指す職員に、勤務のローテーションを考慮するなど、バックアップ体制が整えられている。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	研修、教育の場を設けている。入居者様に対する人権に関しては当社の理念に折り込み済みであり、すべての職務は理念に始まるとの教育を折りにつけ行っている。	人権教育に力をいれ、法人内外の研修に参加する機会を多く設けると共に、管理者は、職員に折に触れ、利用者の人権について理解を深める働きかけをしている。研修記録の整備が不十分である。	法人全体や、ホームでも力を入れ取り組んでいるが、記録として残っていない。記録に残すことで振り返りや、確認が出来るので、研修がより有意義なものとなるよう記録に残す取り組みが望まれる。
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修に始まり各人の力量に応じた各種社内研修制度は充実しており外部研修への参加も奨励している。働きながらのトレーニングの機会は十二分に整っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入しており交流の機会はある。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	安心して不安なく新しい環境に慣れて頂く為スタッフ全員で見守り、声掛けを行い要望等に対してはきちんと耳を傾けている。又、情報はスタッフ全員で共有している。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学に来られた時又アセスメントの時から不安、要望等お聞きしてより良い関係が築けるように努めている。情報はスタッフ全員で共有している。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメント時、入居時に話し合いを行い初期のニーズを把握し、他のサービスも含めた支援を行うよう努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出切ることには役目を担って頂くという姿勢は変わることはないが、出切ることが段々少なくなるという現状がある。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人様により良い支援が行える様御家族様と情報の共有をし合い、話し合いができる関係作りに努めている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ホームに面会にみえる方には続けての訪問をお願いしたり、近所に出かけた折には御本人に声掛けしたりするが、積極的には行っていない。今後は個別ケアとして取り組んでいきたい。	家族の協力を得て馴染みの理・美容院を利用したり、以前働いていた職場の同僚が、訪問の際に、再来を依頼したり、これまで大切にしてきた馴染みの関係が途切れることがないように、関係継続の働きかけをしている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフが間に入り時には代弁者となりコミュニケーションを取っていくように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	積極的には行っていない。御家族、ご本人様から要望があれば相談や支援を行う用意はあるが、サービス利用終了後は疎遠になりがちである。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の関わりの中で御本人の希望、意向の把握に努めている。スタッフ全員で情報は共有している。	担当職員は、利用者の言葉や表情の変化から思いや意向を把握し、きめ細かく対応している。禁止や強制の言葉は使わず、自発的な言葉を待つようにしている。日々の関わりの中で得た情報は職員間で共有し、サービスに反映させている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前アセスメント、又御本人からは日常的に御家族からは折につけ、情報の把握に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタルチェック、様子観察、日々の関わり、スタッフ同士の情報交換の中で把握に努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成時はサービス担当者会議を必ず開催して関係者から意見を頂き介護計画に反映させている。その他にも、スタッフからは毎月のモニタリング、ケアカンファレンスで意見、アイデアを聴取している。	面会時や、家族会での意見、日々の関わりの中で得た利用者の意向や情報を、ケアカンファレンスで検討し、計画に反映させている。毎月モニタリングをし、現状に即した計画である。利用者の状況の変化時はその都度見直し、現状に即した計画を作成している。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子は介護日誌、個人記録に記録して情報の共有は図っている。就業前には各人がそれらの記録を確認してからケアに入っており毎日2回の申し送り時にも伝達を行っている。介護計画の見直しに反映させている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟な支援やサービスを行いたいと努めているが不十分と思われる。今後取り組んでいきたい課題である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源との協働に努めている		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	御本人、家族の希望をお聞きしかかりつけ医を決定している。現在当方の訪問医は内科医3名、歯科医1名で、その他必要に応じて御家族様と連携を取りながら他科受診を行っている。	提携医師の定期的な訪問診療や、利用者、家族の希望する、かかりつけ医の訪問診療も行われている。どちらも24時間医師と連絡がとれる体制が整えられている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職は在籍しておらず、訪問介護も受けていないので看護職との連携はなし。日常の連携は其々の主治医と行っている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際の医療機関との協働は行っている。病院関係者との関係作りは現在行っている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	昨年より重篤時対応確認書を頂く取り組みを行っている。入居時に頂くこととし、既入居者、ご家族にも主旨を説明して確認書を頂いた。	重度化や終末期のあり方について、ホームで対応できる範囲を明確にし、入居時に、利用者、家族に説明し、同意を得ている。利用者の状態変化時は、その都度本人や家族の意向を尊重しながら、関係者間で連携し、納得した最期を迎えられるように考えている。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時には救急搬送をしている。定期的な訓練は行っていない。会社が行う研修には参加している。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は定期的に行っており、地域には町内会長を通じて声掛けを行っている。近所の方の協力の申し出は頂いている。	夜間を想定した避難訓練を定期的実施し、隣接する小規模多機能職員との協力体制も確認し、ホームに近い居住職員との連携体制、地域との連絡網作成の検討や、訓練時に住民の参加を呼びかけているが、実施にまで至っていない。	非常災害時には地域の協力が不可欠である。住民が参加しやすい環境を整え、住民も参加しての避難訓練の実施が望まれる。また、非常食や飲料水、毛布などの備蓄も期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	会社の理念にある通り尊厳を尊重した接遇に会社をあげて取り組んでいる。	職員は、利用者の尊厳を損なわないよう、言葉遣いや態度等、繰り返し学習できるようなシステムが作られ、常に利用者に対し、人格を尊重した対応をしている。個人情報の保護にも細心の注意をはらっている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	スタッフが常に言葉かけを行い希望を聞きだしたり自己決定を促している。自己表現できない方へは思いを汲み取るように努めている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	全てをお一人お一人に合わせる訳にはいかないが、なるべく希望に沿うように努めている。ご本人のペースを大切に作る取り組みは行っている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	普段から見だしなみについて細かな支援を行っている。特に外出の際は、着るものを選ぶ楽しみを味わう所からの支援を行っている。。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出切ることはして頂き、出来る限り好みに合わせた食事を提供して食事時の会話も含め楽しんで頂くよう努めている。又、庭で収穫した野菜を使った食事を提供し、季節を感じて頂く様努めている。	職員は、献立の作成から調理まで、利用者の嗜好や希望を聴き、豆の皮むき等、料理の下拵えを利用者と一緒に行っている。職員は利用者と一緒に食卓を囲み、会話しながら、さり気なく支援をしている。時にはウッドデッキでバーベキューをする等食事が楽しいものとなるよう工夫している。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎回の食事量、水分量を記録して1日を通して十分な栄養、水分量が確保できるように支援している。好みの主食、水分にトロミをつける等、状態、習慣に合わせた個別の支援を行っている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、自立の方以外殆どの方について口腔ケアの声掛け、見守りを行い、記録を行っている。義歯の洗浄、口腔スポンジの使用等状態に合わせたケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	全員の方が昼間はトイレで排泄して頂いており、排泄状況は記録してケアに活かしている。安易なおむツ使用はせずに少しでも長くトイレを使用して頂ける様支援を行っている。	利用者の、トイレでの排泄を大切に支援している。排泄チェック表から排泄パターンを把握し、利用者の気配を察知し、トイレに誘導する取り組みで、日中はオムツを使用している利用者はいない。遠出の外出や行事の際も、紙パンツを使用し、オムツは使用していない。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜を多く取り入れた献立にする、水分の摂取を促す、毎日の運動など便秘に対する取り組みを行っている。毎日の申し送りで全員の排便状況を確認している。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	無理強いせず個々の希望で入浴して頂いている。時間については夕方は難しい面があり今後の課題である。	入浴日は決めているが、利用者の状況や希望に沿って柔軟に対応している。入居時に強固に入浴拒否していた利用者も最近では進んで入浴する等、個々の状況に応じた支援の成果もみられる。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お好きな時に自由に休んで頂いている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフのデスクに個々の薬情が置いてありいつでも確認できるようになっている。服薬は全面支援している。症状の変化については、他の変化同様確認に努めている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る事はして頂き、活き活きとした張り合いのある生活、笑顔の多い生活を目指して個々のしたいことの把握、実践を行うよう努めている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	少しでも外出の機会を増やすよう努めている。近所への散歩、月に1度の外食、買い物同行等行っている。家族の支援も頂いているが、今後はより多く個々の希望を叶えるべく努めていきたい。	季節を肌で感じる事が出来るように、年間を通して、花見やドライブを数多く計画している。月に一度の外食やショッピング、散歩など戸外に出る機会が多い。隣接する小規模多機能ホームからの利用者もいて、行ったり来たりの関係である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	殆どの方が自分でお金の管理は出来ない。出来る方については御家族と相談の上支援している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はかかってきた時もかける時も支援している。手紙が届いた時は代読したり返事を書いた時は投函したりと支援を行っている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清掃の徹底を行い、不快、混乱を招くような環境は作らない。壁に季節の飾り、名言、個々の室内レクリエーションでの作品などを掲示している。	食堂とホール間のキッチンは、利用者と職員が、楽しそうに食事の準備をし、ウッドデッキからは、庭先の菜園や田圃を眺めることができる。利用者と職員が製作した、季節感を取り入れた掲示物や飾り等で、居心地よく過ごせるよう細かい配慮がなされている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ前のソファセット、玄関前の長椅子などで過ごされる。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に馴染みの物の持込を勧めているがあまり持ち込みは無く、シンプルにされることが多い。写真や個々の作品等を飾って居心地の良い居室作りに努めているが夜間以外あまり居室では過ごされない。	食堂を囲むように配置された居室は、どの部屋も窓が大きく明るい。馴染みの家具が置かれた部屋はクローゼット等の収納スペースがありスッキリと整理されている。壁には、行事の写真や手作りの作品が飾られ、窓辺には朝顔やゴーヤのグリーンカーテンが植えられている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共有フロアを囲んで各居室が配置され、対面式キッチンで出来る事の支援が出来る安全な環境が保たれている。		